



2021年6月16日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック  
代表者名 代表取締役社長 福永 健司  
(コード番号 2342 東証マザーズ)  
問合せ先 取 締 役 船橋 泰  
(電話番号 03-6551-2601)

### 当社子会社の医化学創薬株式会社における 国立大学法人熊本大学との SARS-CoV-2 スパイクタンパク質に対する抗体の 共同研究開始に関するお知らせ

当社子会社の[医化学創薬株式会社](#)（代表取締役社長：八並孝夫、北海道札幌市、以下、「医化学創薬」）と国立大学法人熊本大学（学長：小川久雄、熊本県熊本市）は、医化学創薬がこれまで継続して取得してきた SARS-CoV-2 スパイクタンパク質<sup>\*1</sup>に対する抗体ライブラリーの新型コロナウイルスを用いた評価について共同研究を開始いたしますので、お知らせいたします。

#### 【概要】

このたびの共同研究は、医化学創薬が取り組む新型コロナウイルス感染症（COVID-19）（以下、「新型コロナウイルス」）に対する簡易検査キット及び治療用抗体の開発プロジェクトにおいて取得に成功した新型コロナウイルスの表面にあるスパイクタンパク質に対する抗体について、熊本大学大学院生命科学研究部 免疫学講座教授 押海裕之先生と実際のウイルス（SARS-CoV-2）を用いて評価を進めるものです。当該共同研究では、変異株を含むウイルスを使用して、中和活性等抗体の性能を評価し、診断薬や治療薬への活用を推進してまいります。

また、医化学創薬は既に[2021年1月26日から国内外の診断薬メーカーや製薬企業向けに販売開始](#)をしているコロナスパイクタンパク質に対する「ユニバーサル抗体<sup>\*2</sup>」に加えて、継続して取得に取り組み、数十種以上の抗体からなるライブラリーを構築いたしました。抗体ライブラリーの評価に関しては、組換えスパイクタンパク質を用いた ELISA 試験によって実施しており、免疫原である糖ペプチドだけでなく、インタクトタンパク質<sup>\*3</sup>にも結合することが明らかとなっており、診断薬や治療薬（中和抗体）開発のシーズになると期待され、7月上旬（予定）に販売を開始いたします。

なお、本件による2022年3月期の連結業績への影響はございませんが、引き続き新型コロナウイルスに関する抗体ライブラリーを拡充させ、収益化を図りグループの業績拡大につなげるよう積極的に取り組んでまいります。

#### ※1 スパイクタンパク質

スパイクタンパク質は、ウイルス粒子の表面に存在するスパイク（突起）状のタンパク質です。スパイクタンパク質にはS1とS2の領域があります。ウイルスが細胞に侵入（感染）する際は、まずS1領域が細胞表面のアンジオテンシン変換酵素2（ACE2）に結合します。スパイクタンパク質のS1領域は、診断薬、治療薬（中和抗体）やワクチンのシーズ開発のシーズになると期待されます。

